

議会運営委員会視察研修報告

葛城市議会
議会運営委員会

<日 程> 2025年（令和7年）2月18日(火)

<研修先> 京都府京丹後市議会

<参加者> •議会運営委員会委員：8名

西井覚 委員長 吉村始 副委員長
西川善浩 委員 坂本剛司 委員
杉本訓規 委員 松林謙司 委員
谷原一安 委員 川村優子 委員



•委員外議員：6名

奥本佳史 議長 横井晶行 議員
柴田三乃 議員 増田順弘 議員
藤井本浩 議員 下村正樹 議員

<随行者> 板橋行則 議会事務局長、
岸田聖士 議会事務局総務課主事、
西郷さくら 議会事務局総務課主事

◆研修内容◆ 市民懇談会について

■ 京丹後市では、議会基本条例の議会の活動原則に基づき市民懇談会を義務化し、毎定期会後3つの会場で2回ずつ、合計24回実施されていた。過去に回数を減らしてはどうかという意見があり検討されたようであるが、条例を堅実に守り、取り組みを維持していくべきであるとの意見が多く、現在まで継続されている。

■ 平成29年に「市民と議会の懇談会」についてのアンケートを実施し、参加者の減少等の課題を示し、改善に向けて議論された。当初は、教室方式で実施されていたが、平成30年度からワールドカフェ方式に変更し実施している。なお、参加者と議員との懇談会後に定期会の議会報告を行っている。ワールドカフェ方式は複数の班に4～5人に分かれ、議員はファシリテーターとなって、共通のテーマを課題とし、意見をグループとし

てまとめていく方式で、参加者全員が発言出来るので、広い視点で議論を行うことが出来る。

また、懇談会前には、班会、班長会が実施されており、各会場毎の報告内容について協議しており、懇談会後には、質疑・意見、懇談会のテーマ、グループごとの意見等の集約結果を分類し、議長に提出する。その後、所管の常任委員会で、政策提言の可能性、調査事項にするかどうかの検討を行うとともに、行政の要望として伝えるべきことは行政に伝えている。それらの結果については、議会だよりに公表している。

■■資料に基づいて説明いただき、委員から多くの質疑がなされ、良い研修となった。

■■委員及び委員外議員の所感■■

- ・ 京丹後市は6つの町が合併をし誕生した市であり、それぞれの旧地区で年4回、1年間で24回の市民懇談会を開催されている事に驚いた。懇談会の方式もユニークでワールドカフェ方式やワークショップ形式で行われ共通のテーマを基に一つのテーブルにおいて5人程度でディスカッションし、対話をもとに市民の建設的な意見を抽出する仕組みとされていた。この形では必ずファシリテーターが要るので、その役目を議員が担うことになっているとの事で、議員の能力が重要な鍵となることは言うまでもない。そのために、ファシリテーター研修を行うことで、議員の資質向上をされている事についても感銘を受けたところであった。このようなワークショップ形式にしたことで、市民の満足度も上がり、議会のイメージアップにも繋がるものであると感じたところである。
- ・ 丁寧なる資料「市民と議会の懇談会について」を拝読出来まして感謝で一杯でございます。(誠に持ってIOSマニュアルに相当する位の第一級の政策資料でございます。) 資料2の5W1H様式資料の奥深さ、資料9の実務報告書、資料10の統計解析資料は誠に持って実戦級で役に立つ資料でございます。関係各位の情報収集能力の高さに感じ入っております。実は資料10の説明を受けた際、統計解析上の正規分布を思い浮かべておりました。
- ・ 個人的に市民との懇談会はかしこまらずリラックスした雰囲気がいいと思っていたので、京丹後市議会が行っているワールドカフェ方式の市民懇談会は素晴らしいと感じた。また議会だよりを使用した議会報告もわかりやすく、そこに報告者の主観も入れることができる自由度がいいと思った。テーマがかなり大きいので、それをまとめるファシリテーターの手腕が問われるところだが、研修もされているということで、議員にとっても勉強になり、個人的な活動にも生かしていくのではないかと思う。議会を身近に感じてもらい、市民のかたが自分たちの声を行政に届けてくれる実感があり、議員と市民

の信頼が構築できる取り組みだと思った。

- 京丹後市「市民と議会の懇談会」の目的は市民の多様な意見を把握して市政に反映させるために、市民参加の機会拡充を図り政策提言及び政策立案の強化に努めることにより、市民とともにまちづくりの活動に取り組むものとする。議会は市民に開かれた議会を目指して情報公開に取り組み、市民に対して議会の議決又は運営についてその経緯、理由等の説明責任を果たすものとする。議会は市民にわかりやすい議会運営を行うために、議会運営にかかる条例、規則、申し合わせ事項を断続的に見直し、議会の信頼性を高めるため、不断の改革に努めるものとする。議会は定例会閉会後に、議会で行われた議案等の審議の経過及び結果について市民に報告するとともに、市政全般に関する課題について意見交換を行うための議会報告会等を開催しなければならない、と市議会基本条例に記しております。したがいまして年2回6町の会場でワールドカフェ方式で開催されています。 frankな方式で能動的に多彩な意見がでやすいように議員もカジュアルな服装で参加されています。会場では3～5名でいくつかのグループに分かれテーマに沿ったさまざまな意見をファシリテーターとなる議員がまとめ、アンケートを集約する。まずは参加市民に意見を言ってもらうことに重きをおき、全体での質疑や意見交換はされない。グループで意見を班長がまとめ、議長に報告し、さらに議長が市の行政に対する要望事項として判断したものについて市長に報告されています。また京丹後市議会だよりも掲載して懇談会の内容を市民に報告されています。
- 葛城市議会の市民懇談会では議会報告というよりは市民の要望の場になりやすい。京丹後市議会では地域を分けチームを分け市民の声を少人数のグループ単位で行っているのが一方的な要望苦情の場ではなくスムーズに行えている点である。
葛城市議会の市民懇談会はどのような場にするのか改めて議論すべきだと感じる。しかし葛城市議会で京丹波市議会のような懇談会を行うには各議員の負担が偏ることがかなり懸念されるが参考にするべき点は多々ある。
- 京丹後市は、6町が合併して誕生した自治体であり、市の面積（約501.85 km²）は葛城市的15倍にも及びます。そのため、議会報告会の開催に際しては、定例会毎に3会場で開催するなどの工夫がなされており、旧町域を越えて参加する市民もいるとのこと。この取り組みにより、住民同士の交流が促進され、地域の融合にも寄与している様子がうかがえました。特筆すべきは、同市議会の議員報告会における「ワールドカフェ方式」の採用です。この方式では、各議員がファシリテーターとなり、参加した市民全員が発言の機会を持ち、テーマに沿った話し合いが行われます。議員は中立的な立場から市民の意見を引き出し、議論を円滑に進める役割を担うため、議会の委員会などにおける発言の仕方にも良い影響を与えるのではないかと感じました。

- ・ 京丹後市は平成15年に6町合併で誕生した経緯から、議会基本条例において、市民の多様な意見を把握して市政に反映させるために、定例会閉会後に年4回24カ所で議会報告会が行われている。

(1) 議会報告会への市民評価

○アンケート調査による市民の受け止め方

- ・評価する：市民、地区の要望を行政に伝える場、議員の熱心さが分かる
- ・評価しない：懇談会としての機能が不十分、意見集約後の経過が不明

(2) 現状の議会懇談会の課題（議会内検証）

①参加者の減少と固定化

②設定テーマに沿わない陳情や要望が多くを占める

③懇談会の内容が政策立案に繋がっていない

④市民と市政課題を共有し、協働した取り組みに繋げる

(3) ワールドカフェ方式の導入

先進地視察、大学教授による研修を経て、自己満足型議会改革から対話（ダイアローグ）重視に転換。その手法としてワールドカフェ方式を採用。

①メリットと課題

- ・メリット：参加者の満足度が高い、少人数制のため質問しやすい、市民の発言を引き出しやすく今後の協業を得られる可能性
- ・課題点：雰囲気づくりによっては参加者の発言が抑制される、事前準備の大変さ、結果を意見や提言にまとめて政策提案や所管事務調査に繋げるためには議員の資質や感性に依存する、ファシリテーションスキルの獲得など

②参加者募集

基本的には告知による自由参加だが、難しいテーマについては団体等に声掛け

③運営

- ・ファシリテーターを議員が努め一定以上（12名3グループ）の人数で運営。
- ・カフェエチケット（グランドルール）を意識した進行
- ・議会だよりを使った活動報告
- ・会場責任者は正副議長、議会運営委員長が担い、会場班長は常任委員長が担う
- ・その他、細かな実施方法等についての説明

※ファシリテーターの役割は、参加者が意見を出しやすい場作りに専念することで、多様な意見のまとめ役ではないという点が参考になった。

④実施後の後処理

- ・記録の整理：会場書記→会場責任者→会場班長→各会場の班長会→所管事項調査として扱うか議会だよりに掲載

※議会懇談会について、参加者の要望や陳情については、その場で答えを出す必要は無

く、議会が逐一メッセンジャーとなって行政に伝える役割でもないということを徹底されている点は、要望の場となりがちな懇談会運営のヒントとなった。

- 説明者のお話を伺うと市民と議会の懇談会を京丹後市では、ワールドカフェ方式で実施することで一定の効果があるのではと感じた。ワールドカフェ方式の懇談会とは、どの様な雰囲気で進められるのか経験をしたことはありませんが、ただ、懇談会が円滑に進み盛り上がるかどうかのカギを握るのは、議会報告者、ファシリテーター役の議員であり一定の習熟が求められるとあります。場合によっては、今後、ファシリテーターの研修も必要になってくるかもしれませんと感じた。
- 懇談会が市民からの陳情や要望の発表の場になっていることを避けて、市政課題について市民から意見を聴取して政策立案につなげることができる懇談会とするためのさまざまな工夫を聞くことができた。懇談会をワークショップ形式でグループでの話し合いとし、議員がファシリテーターを務めている。この点では舞鶴市議会と同じ形式をとって改善に成功しており、学ぶところがあった。

懇談会の報告書を作成し、市民の意見を、行政に伝えるもの、所管の常任委員会で調査事項とするもの、政策提言に生かすもの等に分類し、行政や議長に報告している。そして、その結果については、議会だよりで市民に報告している。懇談会の意見を聞きっぱなしにせず、実効あるものとするため努力は見習うべきと考える。

懇談会で参加者がテーマについて建設的な話し合いを持った後に、いわば第2部として市議会報告会を行うことで、議会に対する信頼を高めている。報告も市議会だよりの記事にもとづく報告であり、懇談会のための資料作りを必要とせず、無理がないと感じた。

- 京丹後市議会では議会活性化特別委員会において市民と議会の懇談会について検証され、議会の活性化を図られている。定例会毎に市民と議会の懇談会はすべきであるという結論を出し、市民にアンケートや先進地視察などを行い、議論された。まずはワールドカフェ方式で行ってみるということで回数を重ねられた。方法にはさまざま工夫を凝らし、議員がファシリテーターになるための研修も積極的に行われた。市民の方々からは議会懇談会の必要性と議会を理解してもらえたという達成感を持ってもらえたことなどの説明に、頻繁に開催されているエネルギーッシュな議会報告は素晴らしいと感じた。また、そのことにより政策提言や市民の要望が行政に届けられ、議会だよりや市議会ホームページに実績を掲載されている点も学ばせていただいた。
- 市民懇談会を市民目線に立って率直な意見の交換ができる企画をされている。
単なる市民懇談会ではなく、“市民と議会の懇談会”という名称にされた。

テーマを“地域課題”など身近な内容についての意見を求めている。
気軽に発言できるように少人数カフェ的な会場設営をされている。
伺った意見は報告書を作成し、議会においては調査事項とするなど、行政に対しては要望事項として市長へ報告することとしている。

- ・ 学んだことを生かせるように努めたい。
- ・ 6つの町が葛城市と同じ平成16年に合併した市であるが、議会基本条例を全国では9番目という早さで制定されている。条例の条文を「議会報告会を実施するように努める」から「しなければならない」と変更され、報告会の重要性を高くされている。
3班体制で6カ所を定例会毎に年間24回の実施は例を見ないと思う。
御用聞きの会とならないように、ワールドカフェ方式を採用され、議会事務局が同行しないのは驚いた。
- ・ よい研修だった。